

2024年度 日韓高校生交流（派遣）事業への参加について

10月21日（月）～25日（金）の5日間、文部科学省委託事業「青少年国際交流推進事業」の一環として独立行政法人国立青少年教育振興機構の実施した本事業で、本校2年生2名が韓国ソウル市を中心とした地域に訪れ、韓国の高校生・大学生との交流や自分たちで決めたテーマについての発表などを行った。2名とも日本全国から集まった高校生達と、韓国の文化や高校生との交流を通し、これからの高校生活、将来について多くのものを学んできました。以下は参加した生徒の交流事業の感想やその様子です。

私の今回の研修の目標は、日本と韓国のいろいろな視点での違いに気づき、韓国人と交流して日本に対する思いを知ることでした。韓国の街の景色は観るだけでも楽しかったし、韓国の大学生や高校生との会話がとても思い出深かったです。仮面ライダーが好きな韓国人がいたり、日本人よりJ-popに詳しくったり、韓国ではお風呂の浴槽がないので温泉に入りたがっていたりなど、本人に聞いてその熱意を知り、とても新鮮でうれしい気持ちになりました。交流した韓国の学生たちは、日本語がとても上手で、自分ももっと韓国語を上手く話してもっとたくさん会話したかったなと、かなり後悔しています。これからも続けて勉強して、韓国についてもっと知りたいです。

（2E 三浦 永遠）

この度日韓高校生交流事業に参加してきました。5日間という短い期間でしたが、とても内容の濃いものでした。なかでも培花女子高校訪問が印象に残っています。培花女子高校は日本に興味がある生徒が多く、日本のアニメや曲の話でよく盛り上がったのを覚えています。私は韓国語をあまり話せなく内容が分からない時が多々ありました。しかし、培花女子高校の生徒が自主的に翻訳アプリで調べ、内容がわかる様にしてくださったお陰で、私は内容を理解することができました。これは韓国の人の優しさに触れた瞬間だったと思います。この5日間経験したことを忘れず、友好な日韓関係を築くために尽力したいと思います。

（2E 武藤 昊）

交流した培花女子高校の生徒と一緒に



韓国での食事



ソウル市街の様子



派遣された日本の高校生達と一緒に

